

# 細胞加工の工程自動化システム “組織ファクトリー”

## 特長1 作業者が入らないアイソレータ・システムによる施設の小型化



従来の製造施設（GPC）における細胞操作



“組織ファクトリー”における細胞操作

### 運用コストの大幅な抑制

従来の製造施設（GPC）では、汚染源である作業者が清浄区域に入ること、

- ・ゾーニングによる緩衝区域の増大
- ・煩雑な衛生（更衣）管理が必要
- ・ヒューマンエラーのリスク

が生じ、施設規模が大きくなり高コスト。

- 作業者が清浄区域に入らないアイソレータ・システムを導入することで、施設面積を大幅に削減することを達成
- 自動化システムによりヒューマンエラーのリスクを低減することも達成

## 特長2 モジュール方式による汎用性の向上（自己再生医療品製造に適した設計）

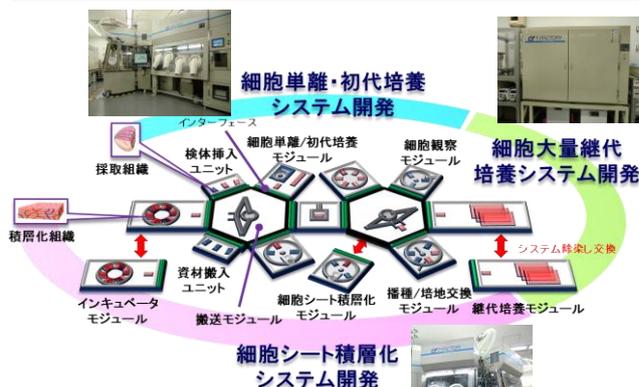


必要な工程モジュールを適宜接続し使用できる  
（モジュールごとに異なるメーカーの採用も可能）

### 少量多品種への対応を達成

- 無菌化（除染）したモジュールを適宜着脱することで、少ない装置数で効率的に多症例に対応できる
- 最低限の工程モジュールを追加することで、簡便に複数の適用（別の部位の治療用組織製造）に対応できる
- 接続部は標準化が進められている

## 特長3 再生医療製品製造の全工程に対し一貫したシステムを構築



### 製造マネジメントシステム

（市販を含む）従来の自動システムは、一部工程のみの自動化で、工程間の連携を構築することが難しい。

- 組織処理から最終製品までを一貫して運用できるシステム設計で、今後更なる小型化を目指すことも可能